トップインタビュ

した。当初、誰にも気づかれないひっそりとしたスタートだったが、ブラスト施工技術研究会が2014年12月に発足して2年10カ月が経

設立3年会員倍増、WG活発に

「品質」が絶対条

防食分野では一定の存在感を示すようになった。3年弱が経過し 会員は27社に拡大した。発起人で会長の小寺健史氏に現在の思

# や情報の共有化などを通 のつながりを深めていく のブラスト施工業者の横 的を教えてください 小寺会長 一つは全国 会員間の情報交換 改めて研究会の目



日乗効果が生まれるこ

(第三種郵便物認可)

して構造物の長寿命化を いう素地調整技術を適用 もう一つはブラストと スト作業が求められてい 所に対しても設計上ブラ を得ません。時には現場 でブラストが出来ない個 言えば、首をかしげざる

実な施工が生じていた

結果として不誠

ともあったと思います

具体的には

狭隘部ブラスト

# 国内プラストのレベル向上めざす

ことです。

施工技術を研究していく

その現状を良い方向に変

えるため真摯にブラスト

ブラスト施工技術研究会

健史氏

間で刺激し合いながら

ラスト施工技術を研き

また

ています。その一環とし その啓蒙活動を目的とし 図ることの重要性、 ラスト工事専門業者に適 て発注者、塗装業者、

SSPCに視察団派遣 設立から3年弱が

切な素地調整の重要性を 主な活動として16年1

工事のデータ収集なども

動が具体化し、ブラスト ました。その各WGの活

進んでいます。今年から

解せずに施工が行われて

今後の方針を聞い

を重視しています。

再認識していただくこと

社を数えるまでに至りま 廃棄物業者など倍増の27 など塗装関連商社、 産装置メーカー、 施工および塗装業者、 国

月には米国SSPC16に 視察団を派遣し、その視 連発表会で行わせて頂 祭報告を数多くの塗装関 ようやく一定の方向性が きればと考えています。 ムや技術発表会で報告で 見え始めたと感じていま 今後は各WGでの研

会員数は現在、ブラスト は2014年12月に十数 経過しました 小寺 研究会そのもの ョンなどにも参加する機 でのパネルディスカッシ 会を頂きました。 研究会設立後、早々に

品質の3ワーキンググル ープ(WG)を立ち上げ どの様に重要か、どの様 との記載はありますが (平成26年3月)

現状の課題は

くことの重要性は理解し

な機材を使用するかの

鋼道路橋防食 ていますが、その一方で て日本の現場で適用可能 国際規格・米国規格が全 いことも事実です。 かと言えば、そうでもな

対条件なのに、それを理 準の記載がありません。 ブラストは「品質」が絶 役目の一つだと考えてい 模索することも研究会の に再構築できるか否かを これらを日本国内向け

準を作ることが必要だと いる現状を鑑みると、 基 日本の気候など高温多湿 りも求められるのではな いかと考えています 条件を考慮した規格づく な環境や塩害地域の環境 個人的には、アジアや

SPCから学ぶこと、そ の優れた点を流用してい ISO NACE S

## ト工事専門業者は、職人 ました。長年の経験に基 の感覚に重きを置いてき の声の反映を継続して望 づいて厳しい現場でも品 小寺 これまでブラス 多様な工法担う人 上の工事では最初に工事 検討会を開くと良いと思 施工検討会を開催し、 ・発注者などが集まり、 に足場架設後に足場上で に関わる業者・コンサル 八材育成

ウや改善点などが設計段 階に反映されてきたかと が、その現場のノウハ (確保に努力してきま) とっても、施工環境が大 います。下フランジから 大幅に変わるからです<br /> だと感じています。その した。現場とアカデミッ の声を聞きたいというこ や発注機関も現場技術者 に恵まれ、逆に研究機関 クな方々と交流する機会 じて私どももアカデミッ 意味でも現在は過渡期 ーズがあることを知りま

策や作業員の安全確保を つでもある有害物質対

もめることになり、工事

や施工困難個所の施工法

は多くが施工中に現場で



(上)SSPC2016視察団を派遣(2016年1月)、 (中)2015年度中間報告会後のWG(2015年11 (下)第2回総会(2016年6月)

テーマでもあります 華させられるかが近年の を学術的かつ現実的に昇 今後に向けて を目指して研究会を運営 含め更なる技術力の向上 していきたいと考えてい

子術・研究と現場の融合を

図りつつ、昨今の課題の ストを施工するための知 でも多くの方々と連携を っしゃると思います。 られる方々が数多くいら 業に真摯に向き合ってお 私たち以上にブラスト作 しているように全国には 重視したい。以前から申 ような人材の育成を、 く、それぞれの施工現場 々施工者が担える様な、 らブラストを提案できる に対して、様々な角度か が良いと言うことではな 法があり、様々な研削材 があります。一つの工法 ブラストには様々な工

ブラスト施工技術研究会

〒041-1104 北海道亀田郡七飯町上藤城 39-2 池田工業株式会社工事部内 TEL: 0138-85-8941 FAX: 0138-85-8942

### 【正会員】

- 安保塗装株式会社
- 池田工業株式会社
- 株式会社交永
- 極東メタリコン工業株式会社
- 株式会社コーケン
- 株式会社澤木塗装工業
- 三興塗装株式会社
- 有限会社シダックス
- 株式会社シンテック
- 太平洋金属株式会社

- 有限会社拓磨工研
- 株式会社竹之下
- 株式会社塗装内田組
- 株式会社ナカタ・マックコーポレーション
- 株式会社瓢屋
- 株式会社久光メタリコン工業所
- 松草塗装工業株式会社
- 有限会社宮嵜塗装工業
- 山川産業株式会社
- ヤマダインフラテクノス株式会社

- 株式会社吉原鉄工所
- 株式会社渡辺塗装工業

#### 【賛助会員】

- エスアールジータカミヤ株式会社
- 興研株式会社
- 関西環境建設株式会社
- 新東工業株式会社
- 日綜産業株式会社